

経済格差と応用マクロ・ミクロ経済学 (+パンデミックマクロ)

教授 山田 知 明

1. 研究内容

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)は経済格差問題の深刻さを浮き彫りにしました。ロックダウン(都市封鎖)は世界中で多くの失業者を発生させ、財政にも大きな打撃を与えています。このような状況で私たちは何をすればよいのでしょうか？富裕層の資産を政府が強制的に徴収してバラまけば良いというわけではありません。お金持ちがお金持ちであるのには理由があります。悪いことをしている人やたまたま生まれが良かった人もいれば、才能に恵まれた人、努力をして富を得た人もいます。間違った政策は逆に不公平感を拡大させてしまいます。格差問題は、感情的で不毛な論争や、根拠がない偏見による非生産的な議論になりがちです。本ゼミでは「科学的」なアプローチをとります。具体的には、客観的に検証可能な理論とデータに基づいて経済格差を考察します。

経済格差を議論するためには、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方を身に着ける必要があります。例えば、家計の世帯主の年齢毎の平均的な所得はいくら位でしょうか？平均だけでは格差は分析出来ないので散らばり具合も考慮する必要があります。所得再分配政策が必要になれば税制や社会保障制度の知識が必要になります。女性の働き方といった問題も格差に関連してきます。当然、景気悪化は失業率の高まりを通じて格差を拡大させます。様々な経済問題は格差問題の側面を持っているのです。

こういった問題に“本気で”取り組むためには経済学に加えて、統計学やプログラミング言語の知識(Julia、Python、R etc.) も必要になります。また、COVID-19 関連の資料は英語が中心になります。経済学に加えて、英語、数学、コンピュータの知識をしっかり身に付けてもらいたいと思います。

2. ゼミの進め方

《2年次》

議論をするためには、共通の知識基盤が必要になります。輪読やエクササイズを通じて、基礎学力を養ってもらいます。

《3年次》

グループ単位で研究テーマを設定し、ISFJ 日本学生政策会議や各種ゼミ大会といった外部のプレゼンテーションへの参加を積極的に促します。

《4年次》

各自の関心に応じてテーマを設定して、卒業論文を作成してもらいます。

3. 教材

次年度の教材は新ゼミ生の関心に応じて決めます。下記は過去の使用したテキストの一例です。

- ・トマ・ピケティ『21世紀の資本論』みすず書房、2014年
- ・D. Acemoglu, D. Laibson and J. List (2014), *Microeconomics*, Pearson.

4. 成績評価の方法

出席、報告及び議論への参加状況によって総合的に評価します。当然、遅刻や無断欠席は厳禁です。

5. ゼミ入室試験(選考方法)

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

上記のトピックに関心がある多様な学生を望みます。交換留学生、留学を希望する学生や海外で働いてみたい意欲的な学生も強く歓迎します。担当教員や本ゼミに関心がある学生は下記のHPやTwitterも参考にしてください。

<http://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/>

twitter: TomoakiYamada3